

第29回北九州市迷惑行為防止推進協議会 議事録

■日 時 : 令和2年8月18日(火) 14:00~15:30

■場 所 : 北九州市役所5階 特別会議室A

■出席委員 : 10名(敬称略)

会 長 : 大坪

副会長 : 佐方

委 員 : 上田、大河内、武谷、濱田、原田、平野、堀田、諸隈
(50音順)

■全体進行 : 安全・安心都市整備課長

■内 容 :

1 開 会

- ・委員、出席者紹介
- ・開会挨拶(林 市民文化スポーツ局 安全・安心担当理事)

2 会長及び副会長の選出

3 議 事

- ・令和元年度実施事業報告
- ・令和2年度実施事業計画
- ・意見交換

※内容は以下、審議記録のとおり

審議記録（要旨）

令和元年度実施事業報告についての意見

【会長】

- 第3次基本計画が本年から始まる。この計画がより良く遂行できるよう、今後の課題などいろいろと意見をいただきたい。

【委員意見】

- モラル・マナーアップ標語コンクール参加者数、迷惑行為防止の巡視回数が減った理由は何か。

【事務局】

- 標語コンクール参加者については例年と同様に各学校に道徳教材の配布を行っており、コロナウィルス対応で授業数が減っていることが一因かもしれない。
巡視回数については、条例制定当初と比べ路上喫煙率が減少し、一定の成果が上がったと判断したため減らしたものの。今年度は昨年度と同じ回数。

【会長】

- 路上喫煙率がせっかくここまで下がっているのに、この状態はできるだけキープしたい。かつ、理想的には巡視を行っているから低いのではなく、市民の意識が高くなってきているので、路上喫煙が少ないという状態を目指したい。そのための取り組みについて検討していきたい。

【委員意見】

- 巡視回数を減らすのであれば、喫煙所の位置や箇所数等の周知がより必要ではないか。

【事務局】

- 昨年度から、啓発用チラシに迷惑行為防止重点地区内の公共喫煙場所の地図を掲載している。また、JTのホームページにも喫煙場所が掲載されている。今後も喫煙所のPRを行っていく。

【委員意見】

- 屋内禁煙の社会的な動きがあり、たばこについての意識が高まっている中、若松と戸畑の推進地区について、路上喫煙率が急に突出しているのには、何か理由があるのか。その原因が分かれば、対策の一つになるのでは。

【事務局】

- 市内複数個所で路上喫煙に関する定点調査を行っている。今後の調査結果を踏まえて、各地区の傾向を見ながら、特徴がある所は対策を打っていききたい。

【委員意見】

- 路上喫煙だけでなく、ごみ出しのマナー、騒音、ごみ屋敷等地域にはたくさん迷惑行為がある。外国人観光客向けのPR等もあるが、地域の毎日の生活の中における迷惑行為への対応・対策についての議論が必要。

【会長】

- 現在取り組んでいる14項目の迷惑行為は、条例策定当時、優先順位の高かった迷惑行為である。今後は、地域住民が取り組みにくい厄介な迷惑行為として、どういうものがあるのかということについて、データを集めたり、ヒアリングしたり、この協議会の中で少しずつ蓄積しておきたい。この14項目の迷惑行為について、今後、見直しが必要ではないかということ、関係部署に意見を上げていきたい。

【事務局】

- 協議会での委員の意見のほかに、毎年市民アンケート調査を行っており、迷惑行為の優先順位付けや新たな迷惑行為についての調査を行っている。アンケート結果や他都市の状況等を見ながら、検討していきたい。

令和2年度実施事業計画についての意見

【会長】

- 昨年度、第3次計画を作成中は、オリンピック開催の前年度ということもあり、外国人観光客向けの啓発などが議論された。その当時と随分状況が変わっているが、調整しながらやっていきたい。また、モラル・マナーアップ関連条例の認知度をあげることも課題の一つである。軌道修正に若干時間がかかると思うが、まずは現状での課題について意見をいただきたい。

【委員意見】

- 「SDGs 未来都市にふさわしい迷惑行為のないまち」が第3次計画の目標として掲げられているが、年長者にはSDGsという言葉はわかりにくい。もっとわかりやすいPRをしたほうが良いのでは。多くの方が分かりやすく、理解しやすいものを広めていくというような取り組みが大事だと思う。

【事務局】

- ひとりひとりが小さい頃からこういう迷惑行為はやめましょうという教育の中で育って、人に迷惑をかけない都市づくりをしていきたいという思いもあり、SDGsという表現を使っている。また第3次計画の課題のひとつである条例の認知度の向上を目指すため、市民への周知が必要。コロナ禍でイベントが自粛され、街頭啓発も難しいが、工夫しながら啓発活動を行っていきたい。

【会長】

- マスコットキャラクターのマナーレンジャーを活用した啓発イベントや、北九州市の小学生たちの協力で作成したDVDの貸出しなどを行っているが、今後は新たな取り組みも必要かと思う。その点で意見はないか。

【委員意見】

- 市内の全小学校に道徳教材を配布しているが、学校は、このコロナ禍の中、授業数の関係もあり、十分な対応が難しい。ピンポイントで、重点地区とか推進地区にある学校へモラル・マナーアップの授業をするよう働きかけてはどうか。家庭に帰って家族の話題に上がることで、啓発につながる。

【事務局】

- 来年度にむけ教育委員会へ相談しながら、検討していきたい。

【会長】

- 推進地区の校区内の学校を対象にすると、身近な問題として取り組んでくれる子どもたちが増えることが期待できる。

【委員意見】

- 地域での活動については支援物資の提供で終わっている。地域住民にむけた広報の仕方等工夫が必要だと思う。

【事務局】

- 迷惑行為防止活動支援団体は現在100団体。徐々に増えている。今後も活動が広がるよう広報・啓発を進めていきたい。

【委員意見】

- 第3次計画の取り組みは、多岐にわたっているが全て網羅するような事業計画なのか。マナーアップ教育の強化・推進については、もう少し子どもが楽しめるような事業計画になれば、より良くなると思う。

【事務局】

- 出前講演などの活用も検討し、子どもたちへ分かるように、啓発活動を進めていきたい。また、安全・安心推進課で行っている、子どもに対する安全教育の中の、実際に小学生と自分の校区のまちに出て指導する授業にモラル・マナーの視点も織り交ぜること等検討していく。

【委員意見】

- 県外から新しく来る大学生に、大学と連携して啓発を行ってはどうか。また、SNS等を活用したら、コロナ禍でもより効果的な啓発活動ができるのではないか。

【事務局】

- 転入者の多い3月は啓発月間として様々な活動を行っている。SNSなども検討したい。

【委員意見】

- 行動心理学を利用した話題性のある新しい手法を取り入れた啓発も結構面白いのではないかと。

【会長】

- 話題になるような取り組みをするというのも、ひいては啓発活動につながっていく。新しい視点だと思う。

【委員意見】

- 重点地区である小倉駅、黒崎駅では、4カ国語の音声アナウンスの他に、外国人向けの表示などはあるのか。

【事務局】

- 小倉駅・黒崎駅の喫煙場所は英語表記を含めて、案内板を設置している。また、外国語のホームページ、外国人向けの生活雑誌などには、モラル関係の記事を掲載している。今年度は、北九州の観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」へ路上喫煙禁止地区や喫煙所の場所について掲載を予定している。

【会長】

- 今日頂いた意見を参考にしながら、来年度の新しい取り組みや課題の整理の仕方に活かしていきたい。